

國津罪止生膚斷死膚斷白人胡久美○下

〔大祓詞後釋〕白人胡久美

後釋白人は和名抄に白癩人面及身頸皮肉色變白云々者也之良波太とある物の類其外世に白子といふ物などのたぐひをいふべし○中かくて此類は共にきたなき物なる故に穢を以て罪とするなりかの推古天皇の御世に參來たりし百濟人の斑白なりしも白人のたぐひなるをそこに惡其異於人欲棄海中島とある如くさる類はきたなきものにて世の人も惡みまして神はにくみきたなみ給ふなり書紀履中卷に見えたる淡路島に坐ます伊弉諾神の飼部の跡の疵の臭氣を惡み給ひし事などを思ふべしさて祓によりて白人胡久美の類の直るにはあらざれども祓つ物を出して祓へばその穢の清まるなり

白子

〔異疾草紙〕云ふこといふものありおさなくよりかみもまゆもみなえろくめにくろまなこなしむかしよりいまにいたるまでまよにいでくることあり

〔和漢三才圖會十倫之用〕白子

按今往往有白子全體悉白惟頭髮淡赤色而珍類耳有母子同白子者予見之蓋續醫說所論者近於理而必不是也月水方行時受胎及社日受胎者世不少矣然白子惟以一二計焉崎異人原不可以理論也

歷易

〔倭名類聚抄三〕歷易 病源論云歷易奈萬豆 人頸及胷前腋下自然斑點相連不痛不癢

〔箋注倭名類聚抄二〕醫心方癩瘍和名奈末都波太按奈末豆波太鯨魚膚之義○中 曲直瀨本歷易作癩易原書作癩瘍按是瘡經歷易處故名從广俗字原書頸下有邊字斑下有剝字連下有色微白而圓亦有烏色者十字不痛不痒作亦無痛痒昌平本掖作腋同

〔伊呂波字類抄奈病瘡〕歷易 ナマツハタ